

令和5年度 福島区区政会議(第一回保健福祉・総務部会)でいただいたご意見と対応方針一覧

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
1	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	TERACO(課外学習事業)は区民センターで実施しているが、実施母体はどこか。また参加状況を教えてほしい。 小学生について、参加しているのは区民センターから近い吉野や大開小学校の生徒ではないのか。上福島や福島、鷺洲、野田の参加者はいるのか。私が住んでいる上福島地域からでは区民センターが遠く、参加しづらいのではないかと考えている。もしも遠方の地域からの参加者が少ない場合は何か工夫をしてほしい。	実施母体はエデュケーショナルネットワークであり、参加状況については、中学生は39～40名、小学生は22～23名である。 手元に参加名簿がないので、地域別の参加人数は今お答えすることはできないが、全校に事業の周知をしており、参加者が一部の学校に偏っていることはなかったと思う。実際お迎えに来ていただいている保護者もたくさんいらっしゃる。本事業は事業者と協定を締結して実施しているものであり、本市では場所を提供すること以外には経費をかけずに実施しているものである。また、塾代助成を利用できるようにしており、安い塾代で運営してもらっているので、色々な場所で提供できるというものではないが、地域が偏っているのであれば今後検討していく。 参加状況について、調べて報告する。	保健福祉課 (子育て教育)	TERACOへの直近の参加状況は次のとおりです。 鷺洲小学校：6名 海老江東小学校：0名 海老江西小学校：0名 福島小学校：2名 玉川小学校：6名 野田小学校：5名 上福島小学校：0名 吉野小学校：1名 大開小学校：3名 このように、区民センターから遠い小学校区からも参加いただいています。なお、区民センターに来ることができないお子さんには、オンラインでの受講も対応可能です。
2	小笠委員 (地域活動協議会 (海老江西))	誰もが生き生きと暮らせるまちづくりについて、ちょっとした困り事を有償ボランティアがするということが、「有償」なのに「ボランティア」という制度が心に引っかかる。無償にはならないのか。	福島お助けネットワークは平成25年から始まって10年近く実施している。困っている人のちょっとしたことをしてもらうため登録してもらったボランティアにやってもらっている。30分300円で困ったときに頼んでチケットで支払うという仕組みの中で実施している。ボランティア活動には無償のものもあるが、作業を頼む場合に無償では気が引ける、という方もいらっしゃるの、いろいろなかたちでボランティア活動を広げることで支え合いの社会を広げていきたいと考えている。	保健福祉課 (地域福祉)	

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
3	中村委員（地域活動協議会（上福島））	このボランティアに近所の方が植木の作業をお願いしたところ、役に立たなかったと聞いた。この10年間で課題が発生していると思うので、改善すべき点があるか聞きたい。また、件数は増加しているのか。	件数は当初始まって以来、平成28～29年度はマッチング件数はだいたい1,000件くらいで、それ以降は800件くらいである。新型コロナウイルス関連で件数は下がった。最近は1,000件近くまで来ている。 また、もう少し件数を増やしたいと考えているが、サポートする側を増やして色々なニーズに応える必要がある。車いすの補助や重いものを移動する場合などのスキルの必要な作業については、30分600円に変更したが、それほどボランティアが増えなかった。課題としては、利用者、サポーター両者に身近な仕組みとして浸透していくよう拡大していくことであり、そのため広報誌などにも特集などを組んで周知に努めたいと考えている。	保健福祉課 (地域福祉)	
4	山口委員(公募)	大阪・関西万博について、万博は何かよくわからない。大阪・関西万博をどのようにPRしていく予定なのか教えてほしい。	大阪・関西万博の機運を盛り上げるため、本市、大阪府、日本全体で取り組んでいるところである。また、当区としては大阪・関西万博の機運を盛り上げるため、区庁舎の飾りつけをするなど、地道な活動をしている。区民まつりでは、万博やSDG sを宣伝するブースを設置する予定なので、区民まつりにお越しになった際は見ていただきたい。	企画総務課 (総務)	

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
5	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	経営課題の2の安全安心なまちづくりの中学生体験学習事業について、参加人数の割に予算230万円は高いと感じる。中学生体験学習事業には寄附もしたいと思っている。 また、他区の中学生も参加しているのか。	中学生体験学習事業は3校から生徒代表の中学生が9名、先生3名、区役所職員2名が参加し2泊3日で実施しており、現地の方からお話を聞いたり、いろいろな施設を見学したりと盛りだくさんのプログラムを組み、学んだことを学校や地域で発表し、他の生徒や地域とも共有してもらっているものである。そのため、適正な予算額であると考えている。また、生徒達からも感謝の思いや、中学生活で一番の思い出になった、東日本大震災を忘れてはいけない、地域の方に伝えていきたいなどの感想を聞いている。さらに、今年度からはSDGsについても学んでおり、今後も引き続き学んでもらえるように進めていきたいと考えている。 また、本事業は当区のみのも事業であり、他区の中学生を参加させる予定はない。	保健福祉課 (子育て教育)	

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
6	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	経営課題の5の魅力あふれるまちづくりののだふじ巡りについて、予算額が1,923万円とかなり高額である。のだふじ巡りでこんなに経費がかかっているのか。それとものだふじ巡り以外のイベントの予算も含まれているのか。イベントごとの予算を教えてほしい。のだふじ巡りはのだふじの会の人がやっている感じがする。地域の人も藤棚の場所を突然聞かれたりすると間違った案内をする場合もあるので、道案内をする人を増やすことなどできないか。	イベント関連の予算額欄の「取組内容」は、のだふじ巡り事業を代表して記載しているものであり、そのほかの様々なイベントの金額も含まれている。のだふじ巡りの予算は、リーフレットの印刷代として20～30万円で、下福島公園で開催しているのだふじまつりの予算は分担金として100万円である。金額の大きなものとしては海の駅事業で1,600万円の予算を計上している。この事業では、事業者が区役所に1,500万円を支払うかたちをとっているため、実質区が負担しているのは約100万円である。また、てんこもりの予算が約100万円で、その他にはまとまった金額を使うイベントはない。 のだふじ巡りについては、ライオンズクラブの事業としてウォーキングスタンプラリーを実施していただくなど、地域のみなさまにもご協力いただきいろいろな取組を実施している。のだふじの見どころの案内は担当職員が少ないこともあって難しいが、のだふじの歴史などが書かれた案内板などを作って設置できればいいと考えている。	企画総務課 (企画推進)	のだふじ巡りについて、ご協力いただいている地域団体の一つであるのだふじの会からも担い手不足やのだふじ育成にかかる費用負担など様々な課題をお聞きしているところです。のだふじを活用して賑わいを創出し、多くの方にのだふじを楽しんでもらうために、区役所として、のだふじの育成が持続可能なものとなるよう取り組むことが重要と考えております。のだふじの育成を応援し、まちの賑わいを創出するために新たな取組を検討してまいります。